

## 第1回勾当台エリアビジョン策定検討懇話会議事録

日 時 令和2年7月3日(金) 13:30~15:25  
場 所 仙台市役所本庁舎2階 第1委員会室  
出席委員 岩間友希委員、姥浦道生委員、高山秀樹委員、舟引敏明委員、宮原育子委員  
事務局 梅内淳まちづくり政策局長、郷湖伸也まちづくり政策局次長、  
松田智子まちづくり政策局政策企画部長、大森武宏まちづくり政策局政策調整課長、  
その他職員

### 1. 開 会

司 会 : それではただいまより、第1回勾当台エリアビジョン策定検討懇話会を開催いたします。私は、仙台市まちづくり政策局政策調整課の大宮と申します。座長が決定するまでの間、司会進行を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

開会の前に、新型コロナウイルス感染症対策につきましてご案内申し上げます。本日の懇話会の開催にあたりまして、委員の皆様のお席の間隔を広めに取りますとともに、傍聴席等につきましても可能な限り、間隔をあけて配置しております。

また、委員のみなさまをはじめ、お集まりのみなさまには、マスクの着用や入室時の手指消毒をお願いしております。傍聴や報道機関の方々にも、受付での健康状態の確認と、お名前とともにご連絡先のご提供をいただいております。

なお、会議中は適宜、換気のため窓を開ける場合がございますので、予めご容赦いただきますようお願い申し上げます。

### 2. 委嘱状交付

司 会 : お待たせをいたしました。まず始めに、委嘱状の交付を行います。

私より、五十音順にて順次、お名前を申し上げますので、郡市長からお1人ずつ、委嘱状をお渡しいただきます。委員の皆様には恐れ入りますが、その場にてお受けいただければと存じます。

それでは郡市長、よろしくお願い申し上げます。

(郡市長より委嘱状交付)

司 会 : ありがとうございます。市長はお席にお戻りください。

### 3. 市長あいさつ

司 会 : それでは開会にあたり、郡市長からごあいさつを申し上げます。郡市長、よろしくお

願い申し上げます。

郡市長： 改めまして皆様、お疲れ様でございます。勾当台エリアビジョン策定検討懇話会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げさせていただきます。

まず、皆様方におかれましては、快く懇話会の委員をお引き受けいただきましたこと、そしてお忙しい中をご参集いただきましたこと、心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

今般の新型コロナウイルス感染症でございますけれども、市民生活また地域経済に大きな影響を及ぼしているところでございます。否応なしに暮らし方、そしてまた働き方の見直しを迫られるといった状況でございます。今、仙台市でも感染防止、そして地域経済を回復させるために全力を尽くしているところでございますが、今日の速報で、東京ではまた120人を超える感染者が出てきたということのようでございます。

大都市というのはやはり感染のリスクが高いという、そのようなことも改めて認識をするところでございまして、地方都市に対して大きな関心といたしまししょうか、注目が集まっているのも事実でございます。この仙台も、そういう意味では、各方面から高い関心を集めていると認識をしているところでございます。仙台の、この都市機能と自然との融合、そしてまた今般の感染症も含めまして、どういう強さがある、これをどうやって広げていくまちづくりが望ましいのかということが重要でございまして、これからもなお、皆様方に選んでいただける街であり続けるための検討が必要であると、こういうふうに思っているところでございます。

この勾当台エリアというのは、改めて私から申し上げるまでもありませんが、仙台にとって仙台駅前と並ぶ大変重要な都市としての拠点、魅力のあるところだと認識をしております。緑豊かな環境と、そしてまた都市機能と美しくマッチングしているところでございまして、またこのエリアではご承知のように、一年を通して大小さまざまなイベントが開催をされて、それも仙台の魅力の一つとなっております。

今、このエリアではこの仙台市役所の新庁舎の建て替え、あるいはまた勾当台公園の再整備について、民間の方々にも大変影響のある、大型のプロジェクトが動き出しております。そして今まさに、これからの都市づくりについて色々と検討いただく新総合計画の議論も進んでおりまして、この中では仙台の街のあるべき理念というのでしょうか、こういったものも皆様方のご議論の中で形が見え始めているところでございます。勾当台エリアは大きな、本市にとっての大切な場所でございますので、どうぞ委員の皆様方には大所高所から闊達なご議論をいただきまして、この街のポテンシャルを高めるために、どんなことが必要であるのかということについて、ご議論をいただければ大変幸いに思うところでございます。

新型コロナウイルスでご不便もおかけし、ご迷惑もおかけする中ではございますけれども、出来る限りのご議論、そしてまたそのご報告を心待ちにしておりますので、どうぞよろしくようお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

司 会 : ありがとうございます。なお、郡市長でございますが、このあと次の公務が控えておりますので、ここで退席させていただきます。

(郡市長退席)

#### 4. 委員紹介

司 会 : 続きまして、委員のご紹介に移らせていただきます。お手元に資料1として名簿を配布しておりますが、本日は時間の都合もございますので、私からご所属とお名前を申し上げ、ご紹介に代えさせていただきます。

はじめに、特定非営利活動法人まちづくりスポット仙台 ディレクター、岩間友希様でいらっしゃいます。

続きまして、東北大学大学院工学研究科 教授 姥浦道生 様でいらっしゃいます。

続きまして、仙台商工会議所 理事・事務局長 高山秀樹 様でいらっしゃいます。

続きまして、宮城大学事業構想学群 教授 舟引敏明 様でいらっしゃいます。

続きまして、宮城学院女子大学現代ビジネス学部 教授 宮原育子 様でいらっしゃいます。

みなさま、改めましてどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

なお、事務局側の出席者でございますが、配布を申し上げました座席表にて、ご紹介に代えさせていただきますと思ひます。

#### 配布資料確認

司 会 : 続きまして、資料の確認させていただきます。みなさまの座席上には、座席表と、本日の次第を表紙とした資料一式を配布しております。資料には番号を付しており、資料1から資料7までの他、資料5の別添資料、そして参考資料を各1点、合わせて9点の資料がございます。不足等がございましたらお申し付けください。

(不足等なし)

ありがとうございます。

それでは、資料2をご覧ください。資料2は懇話会の要綱でございます。本懇話会の検討事項や座長選任、座長代理の指名、会議の成立要件などを定めております。

要綱のうち、会議の成立につきまして、本日は5名の委員皆様にご出席いただいておりますことから、要項第5条第2項による定足数を満たしていることをご報告申し上げます。

また、会議の公開・非公開の取扱いにつきましては、後程、議事の中でご審議をいただく予定ではございますが、正式な決定を行うまでの間は、公開を進めたいと考えておりますので、ご了承いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

## 5. 座長選出

司 会 : 続きまして、座長選出に移らせていただきます。お手元の資料 2 の、懇話会設置要綱第 4 条第 2 項にて、座長を互選により定めるとされております。この件につきまして、みなさまからご意見やご提案等はございますでしょうか。

(高山委員挙手)

高山委員、ご発言をお願いいたします。

高山委員 : 僭越ではございますが、私からご提案をさせていただきたいと存じます。

私は宮原委員に、座長をお願いすることをご提案させていただきます。宮原委員は、勾当台のあり方を検討するにあたり、地域と外部との関わりや地域特有の資源の活用などの観点が重要になることを考えると、これらの分野について長年にわたり研究に取り組みされており、また広瀬川創生プラン策定推進協議会の会長、仙台市の様々な協議会においても要職を歴任されていますので、そのような理由から宮原委員を適任であると考え、座長にご推薦申し上げたいと存じます。

司 会 : 高山委員、ありがとうございます。ただいま高山委員よりご提案いただきましたが、委員のみなさまはいかがでしょう。

全 委 員 : 異議なし。

司 会 : よろしいでしょうか。それでは、宮原委員に座長をお願いすることといたします。宮原委員、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは宮原委員には、座長席にご移動いただくようお願い申し上げます。事務局でお席の準備をいたしますので、少々お待ちください。

(宮原委員 座席移動)

それでは、宮原座長よりごあいさつを頂戴できればと存じます。宮原座長、よろしくお願い申し上げます。

宮原座長 : 皆様、改めましてこんにちは。ただいま座長にご推挙いただきました宮原です。簡単ですが、ご挨拶を申し上げます。先ほど、郡市長さまからもお話がありましたが、今、勾当台のエリアでは様々な公共施設の整備、それから民間の色々な施設のリニューアルなども進むようになってきていると聞いております。

私は平成 9 年に仙台に来て、もう二十数年経っていますが、今見ても素敵なまちだと思いますが、このエリアもそろそろ、色んな形で新しい時代の中で、ビジョンを考えながら、様々な公共施設のリニューアルなど、そういうところも位置付けていくという事が必要という認識を持っています。これから 50 年、100 年先の仙台を見据えたときに、この都心の中でも勾当台エリアが、どのような特徴を持ち、そして、どのようにまちづくりを展開していくかということも、非常に重要なことだと思います。

今回、皆さんと議論を進めながら、このビジョンが実際に取り組んでいくまちづくりの

端緒となり、それからエリアや、都心全体の魅力向上につながる事を期待しています。今日、5人ということでこじんまりとした懇話会ではありますが、いずれの皆さんも仙台に深く関わって、日頃から様々なまちづくりにも積極的に取り組まれていますので、また今回始まる勾当台のビジョンの議論がより良いものとなりますように、皆さんと一緒に進めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

司 会 : 宮原座長、ありがとうございました。これより宮原座長に進行をお渡しいたします。  
宮原座長、よろしくお願いいたします。

宮原座長 : ありがとうございます。

## 6. 議 事

### (1) 懇話会の運営について

宮原座長 : それでは懇話会をスタートします。皆様、よろしくお願いいたします。

これより議事に入りたいと思います。まず懇話会の運営についてです。事務局から案が示されていますので、説明をお願いいたします。

事務局 : 事務局を務めます、まちづくり政策局政策調整課の大森と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私から資料3に沿いまして、懇話会の運営について案をご説明申し上げます。恐れ入りますが、着座にてご説明をさせていただきたいと思っております。

それでは資料3をご覧ください。資料3の1番、会議の公開についてでございます。

(1)にございます通り、会議は原則として公開するものと思っておりますが、会議の開催の都度、こちらに記載がございますア・イ・ウの、3つの非公開とする条件に当てはまるかどうか、座長より委員にお諮りし、公開・非公開を決定してはどうかと考えてございます。また、(2)の公開方法ですが、会議の傍聴定数等につきましては開催の都度、座長が定めることといたしまして、(3)の傍聴時のルールにつきましては、資料3裏面のとおりに定めることをご提案させていただきます。

2番、議事録の作成につきましては、事務局でございます政策調整課にて、(2)に記載の事項を含む議事録を作成いたしまして、(3)にありますように、座長と、もう1名の委員の方にご署名をいただきたいと考えております。

次に3番でございます。座長代理の指名についてでございますが、懇話会設置要綱に基づきまして、宮原座長に、座長代理をお一人、ご指名いただきたいと考えてございます。

最後に4番、委員等の会議への出席についてでございます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況や、社会・経済活動、生活様式の変化への対応を念頭に、懇話会の要綱の中では規定しておりませんが、WEB会議システム等によるリモートでのご出席を可能とする旨を、あらかじめ決定しておくことが良いのではないかと考えております。

ご説明は以上でございます。

宮原座長： ありがとうございます。まず、ご説明いただきました懇話会の運営についてですが、事務局案の通り、会議は原則として公開として、非公開とするかどうかについては、会議開催の都度、皆様にお諮りして決めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

全 委 員： 異議なし。

宮原座長： ありがとうございます。そのようにさせていただきます。

次に議事録ですが、事務局が作成した議事録に、私ともう1名の方を指名して署名をいただくという案がございます。五十音順に今日は、岩間委員に署名をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

岩間委員： はい。わかりました。

宮原座長： よろしくお願ひします。それでは、岩間委員に署名をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

それから、次に座長代理につきて、座長が指名する事となつていますが、私としては、都市地域計画や土地利用計画をご専門とされている姥浦委員にお願ひしたいと思ひますが、いかがでしょう。

全 委 員： 異議なし。

宮原座長： ありがとうございます。それでは、姥浦委員に座長代理をお願ひいたします。お手数ですが、お席を移動してください。

(姥浦委員 座席移動)

では、座長代理からもご挨拶をよろしくお願ひします。

姥浦座長代理： 改めまして、東北大学の姥浦です。ただいま、座長代理を仰せつかりました。

市長も宮原座長も発言されたので、今さら言うこともないのですが、やはりこの仙台駅と勾当台、それから西公園の付近、さらには五橋の付近と、都心をぐるっと囲むこの4つの核。それと4つの真ん中。この辺りをどうしていくのかというのは、これからの仙台の都心、都心というのは一番のエンジンだと思いますが、その街のエンジンをどうしていくのかという事で非常に重要なポイントだと個人的には思っており、勾当台エリアビジョンについて検討する会に参加させていただいて非常に感謝しています。

若輩者ではございますが、宮原座長を補佐させていただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

宮原座長： ありがとうございます。改めて、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは議事に戻りまして、先ほどご説明ありました資料3の4です。会議への出席

についてということで、懇話会の設置要領には特に規定はないですが、社会情勢を踏まえて、WEBによる会議出席について懇話会の運営に明記したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全 委 員： 異議なし。

宮原座長： ありがとうございます。そのようにさせていただきます。

## (2) 懇話会の役割等について

宮原座長： それでは次の議事、懇話会の役割にまいります。事務局で資料を用意しているということですので、ご説明をお願いいたします。

事 務 局： 資料4に基づきまして、懇話会の役割等について案をご説明申し上げます。

資料4の1番、役割・目標についてでございます。

本市にて今年度中に策定を予定いたします「勾当台エリアビジョン」の検討にあたりまして、その内容の充実を図るため、委員の皆様より、専門的見地からご意見、ご指摘をいただきたいと考えております。

2番、検討事項についてでございます。検討事項としましては、勾当台エリアの目指すべき方向性や機能など、エリアのあり方に関する事、そして、その他必要事項としてございます。

3番、会議スケジュール等についてでございます。本懇話会は、(1)に記載のとおり、全部で4回の開催を予定しておりまして、第2回を8月下旬頃に、第3回を11月上旬頃に、第4回を令和3年1月上旬頃に、それぞれ開催する予定と考えてございます。また、パブリックコメントなどの市民意見を聴く機会を設けますとともに、検討状況につきましても周知してまいりたいと考えてございます。

ご説明は以上でございます。

宮原座長： ありがとうございます。今ご説明いただいた件について、ご意見やご質問はございますか。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

## (3) 勾当台エリアビジョンについて

宮原座長： それでは次の議事です。勾当台エリアビジョンにつきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

事 務 局： それでは資料5に沿いまして勾当台エリアビジョンにつきまして、またその後、資料5別添資料に沿いまして勾当台エリアの主要公共施設等につきまして、ご説明を申し上げ

げます。

まず、資料 5 の 1 番、策定の背景についてでございます。勾当台エリアは、昭和 20 年の仙台空襲で一帯のほぼ全ての建築物を焼失しながらも、現在では本市都心の核の 1 つへと発展を遂げ、市民・来訪者の方々に親しまれております。本市都心のまちづくりにおきまして、極めて重要なエリアでございますが、近年は仙台駅周辺に人の流れが集中し、また、建築物の老朽化も進むなど、課題が顕在化してございます。そうした中で、市役所本庁舎の建て替えや勾当台公園の再整備など、50 年から 100 年に一度とも言うべき、大規模な公共施設の再整備が、同時に動き出しているという状況でございます。

また、この度の新型コロナウイルス感染症の流行によりまして、人々の価値観の変容や地方に対する関心の向上、都市間競争の発生等も想定されるところでございます。

これらの状況を背景に、2 番、策定の目的等でございますが、今後、公・民が行う資産の老朽化対応におきまして、個々の改修や更新といった、言わば「点」を結び、一体的な「面」としてのエリアの魅力向上を図るため、勾当台エリアビジョンを掲げまして、共通の理念・方向性となるエリアの特色を明確化したいと考えてございます。

また、ビジョンの策定後におきましては、他のエリアとともに「エリア特色を踏まえた付加価値の創出」を意識して具体の施策展開を図り、「将来にわたり選ばれ続ける都心づくり」に向け、人々の滞在と活動を生むことを目指していきたいと考えてございます。

なお、ビジョンの目標年次は、現在検討を進めております新総合計画などとも整合するかたちで、令和 12 年度といったところを想定しております。

3 番の策定の視点でございます。ビジョンには、3 つの視点が必要ではないかと事務局としては考えておきまして、資料 5 の下の図、赤の二重線でお示しする 2 つの囲み部分がございますが、このうち下の方に○印で 3 点記載してございます。

1 つ目が、「都心における勾当台エリアのあり方」でございます。本市の都心の中で、勾当台エリアはどのような存在であるべきか、役割・あり方を固めていくことが必要だと考えてございます。

2 点目が、主に民有地を念頭に置いたものでございまして、「今後の都市機能誘導や施策展開に向けた考え方」でございます。今後、勾当台エリアの特色を活かすためにも、エリアの資源や、地域性を踏まえた施策展開が必要になると考えたところでございます。

3 点目は、現在進んでおります、または今後動き出す「公共施設再整備が持つべき共通の方向性」でございます。本市は、勾当台エリアに多くの市有地を有しておきまして、これらの再整備が一体として目指すべきものをお示しし、先に申し上げました都心における勾当台エリアのあり方と、今後の施策展開の方向性ととともに、エリア全体のまちづくりに関する、本市としてのメッセージを打ち出していきたいと考えてございます。

続きまして、資料 5 の別添の方をご覧ください。A3 版の資料でございます。

こちらでございますが、エリア内の公共施設、公共空間の地図と写真を載せております。勾当台エリアの範囲につきましては次の議題の資料としてお示しすることとしておりますので、いささか順番が前後してしまうのですが、勾当台周辺の公共施設の



状況をご紹介するべくご用意した資料でございます。

こちらにお示しいたしております通り、勾当台エリアの公共空間や公共施設は、現在までに大きく姿を変えてまいりました。資料の中央下側のモノクロ写真でございますが、こちらは昭和 60 年頃の勾当台公園付近でございます。東二番丁通と勾当台通のクランクの解消工事が行われております。写真中央の、第一生命ビルのすぐ右側に、道路を挟んで数本の樹木が見えるかと思いますが、これは現在の勾当台公園の「時の広場」、ルート 227 カフェのところにございますヒマラヤシダでございます。当時と比べまして、道路の線形が大きく変わったことがわかる写真となっております。

左下の緑色の吹き出しの部分でございますけれども、こちらは定禅寺通の写真を載せてございます。モノクロの写真がケヤキの植樹当時、カラーのものが昨年、撮影したものでございます。昭和 33 年に植樹されました定禅寺通のケヤキは、現在では大きく成長いたしまして、杜の都仙台を象徴する空間を形成しているところでございます。

右上の水色の吹き出しでございます。こちらには、整備中の市民広場とリニューアル前の勾当台公園の写真を載せてございます。市民広場は、元々平置き駐車場でしたが、地下鉄南北線の整備や先ほどのクランク解消工事とともに、勾当台公園全体のリニューアル工事の中で、駐車場の地下化と合わせて整備されたものでございます。現在ではこの市民広場、高い稼働率を誇っておりまして、本市の大規模なイベントではメインステージとなるなど、市民・来訪者の方々に広く親しまれている場所となっております。

他に、黄色の部分、昭和 40 年の市役所の建て替え時の写真などもございますが、近い将来、これらの公共施設や公共空間が、現在の姿からさらに変化する時期を迎えようとしているわけでございます。

繰り返しとなりますが、まちが大きく変化しようとしているこのタイミングをとらえまして、勾当台エリアビジョンとして、エリア全体のまちづくりに関する、本市のメッセージを打ち出していきたいと考えております。

ご説明は以上でございます。

宮原座長： ありがとうございます。ただいま、勾当台のエリアビジョンについての策定の背景、それから目的、そして策定の視点についてご説明をいただきました。この事について皆様からご意見やご質問がありましたら、お願いします。

また策定の視点というところで、3つ赤い囲みのところが示されていますが、何か加える、それから別の視点でというものがありましたら、ご意見いただければと思います。いかがでしょうか。ご質問でも結構です。

宮原座長： どうでしょう。

それでは少し、私の方から皆さんに質問です。皆さんは仙台市とはどれくらいのお付き合いですか。この時代を、資料 5 の別添で出ていますが、いつぐらいから皆さんお住まいでしょうか。高山委員はいつぐらいから。

高山委員： 生まれてからずっとになります。昭和 41 年から。

宮原座長： この場所のこういった変化をずっとご覧になっていますか。

高山委員： ただ、こうやって見るとそうだったなと思いますが、記憶も曖昧な所があり、市民広場が駐車場だったかなと言われてみると「んー」と思います。全然記憶にないです。

宮原座長： 舟引先生はどうですか。

舟引委員： 私はここにきて 4 年目ですが、じゃあまったく知らないかという、そうではないです。このクランクの解消工事と地下鉄です。

あの時に実は、霞が関の方でちょうどこの担当をしていて、都市公園をあっちとこっちと入れ替えると。その頃はまだ国が結構強かったので、良いのか悪いのかという話をたくさん議論した記憶があります。

宮原座長： お世話になっていたのですね。

舟引委員： 私はどんどん変えた方がいいと言っていました。

宮原座長： ありがとうございます。岩間さんいかがですか。

岩間委員： 私は 2014 年にアイターンできたので、6 年目です。定禅寺通は、どちらかという計画とかよりは、遊歩道でマルシェをやるような活動が主体で。そこで関わったコーヒー店のご主人とかから、ケヤキが小さかった頃の景色を言葉で聞いているような、想像して補っているような感じです。

宮原座長： ありがとうございます。姥浦先生いかがですか。

姥浦座長代理： 私もちらにきたのが、12 年ちょっと前なので、つい最近です。それまでは観光で訪れたくらいで。大学時代友達のところ遊びに来たり、などはありました。本格的にはそれ以降です。

宮原座長： ありがとうございます。比較的、在仙台が新しい方もいますが、こういう形で昭和 30 年代、40 年代ぐらいから、このエリアの整備がスタートしているので、今回改めてビジョンを策定しながら行う事になります。このビジョンの資料 5 については特にご意見やご質問はございませんか。

ありがとうございます。

#### (4) 勾当台エリアの位置付けと現状等について

宮原座長： それでは、次の議事に進めます。次は勾当台エリアの位置付けと現状についてご説明をお願いします。

事務局： それではご説明を申し上げます。まず、資料6に沿いまして、勾当台エリアの位置付け等についてご説明申し上げます。

資料6の1番、勾当台エリアの範囲でございます。地図にお示ししてございますように、地下鉄勾当台公園駅を中心に、北は市役所界限、南は元鍛冶丁公園界限、東は愛宕上杉通界限、西は晩翠通界限といったエリアを想定してございます。これは、勾当台公園とその付近におけます、市民活動等の舞台として利活用されている本市の公共施設を端に取ったものでございます。エリア設定には多様な考え方があろうかと思われまますので、委員の皆様のご意見も伺いながら設定してまいりたいと考えてございます。

なお、2番の勾当台エリアのあゆみ、この表の中の一番上、江戸時代のところに記載がございます通り、勾当台という名称でございますが、仙台開府の頃、盲目の狂歌師「花村勾当」が屋敷を構えた周辺が小高い台地であったことなどに由来するものとされてございます。この資料右側に等高線図を記載してございますが、現在でも、勾当台公園の北側から宮城県庁にかけまして、周辺より高い台状の地形が確認できます。この図でいきますと、赤く塗ってある部分が周辺より高い部分ということでございます。

それでは改めまして、2番の勾当台エリアのあゆみでございます。江戸時代からの歴史を有する勾当台エリアでございますが、これまでに大きな転換点が2つございました。1つは昭和20年代、仙台空襲と戦災復興に向けた都市計画道路等の整備でございまして、特にこの時代の区画整理で、民有地の減歩など、市民のみなさまの多大なご協力をいただいた結果、現在の勾当台エリアの原形がつくられたものでございます。2つ目は昭和60年代から平成のはじめ頃、先ほどもご説明いたしました東二番丁通と勾当台通のクランク解消・直線化、また地下鉄南北線の開業、そして141ビルの完成など、現在の街並みはこの頃に形成されたものとなっております。そして現在、勾当台エリアは3回目の大きな転換点を迎えているものと考えてございます。

なお、資料の右下には、仙台空襲による本市都心の被害範囲をお示ししております。赤色に塗られたところが焼失部分でございまして、その被害は約500ヘクタールに及ぶものでございました。

次に、資料6の2ページ目をご覧ください。

3番、新総合計画等をご紹介させていただきます。

平成30年10月より、令和3年度から令和12年度を対象といたします新総合計画の策定に向け、仙台市総合計画審議会にてご議論をいただいております。「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI～」という、本市全体のまちづくりの理念の案を含む、中間案の素案が示されたところでございます。こちらの資料、ページの中ほどの薄い水色のところに、分野ごとの施策の方向性を抜粋してございまして、都心まちづくりの推進ということで、勾当台・定禅寺通エリアとその周辺における魅力向上の取り組み等

を掲げているところがございます。

勾当台エリアビジョンは、新総合計画のまちづくりの理念や目指す都市の姿との整合を図りますとともに、本市として重点的に取り組んでいく「チャレンジプロジェクト」や「分野ごとの施策の方向性」を踏まえたものとしてまいりたいと考えてございます。これと同時に、今後改定が予定されております「都市計画マスタープラン」など、分野別の全市的な計画の趣旨や理念とも整合を図ることで、勾当台エリアビジョンは、勾当台エリアで展開される具体の施策と、総合計画や分野別計画などの上位計画とを、つなぐ役割を担ってまいりたいと考えております。

そして右側、4番といたしまして、別途、都心全体で進めております「せんだい都心再構築プロジェクト」の概要をご紹介させていただいております。このプロジェクトの中におきましては、資料の一番下のところに記載しております通り、都心の活力を創出する主要な起点としてこの勾当台エリア、位置付けられておりまして、「多彩な市民活動と定禅寺通や市民広場、一番町等の豊かな公共空間が一体となった日常的な賑わいと交流を創出するエリア」とされているところがございます。

続きまして、資料7のご説明に移らせていただきます。

表紙を1枚おめくりいただきまして、1ページ目をご覧ください。こちらは参考情報といたしまして、都市計画上の用途地域や地区計画など、基礎となる情報をまとめているページでございますので、後程ご確認いただければと存じます。

次に2ページをご覧ください。2ページには、エリアの建築物の老朽化について記載してございます。右下に地図でこの統計の範囲を示しておりますが、この範囲の建築物につきまして、築年数及び用途を調べましたところ、左上のグラフの中の上から5番目のところ、「全用途」の部分、水色と青色のグラフの通り、この範囲内のほぼ半数の建築物が築40年以上となってございました。また、築20年以上40年未満の建築物も31.1%ということで3割を超えてございます。エリア全体で約8割、20年以上の建築物が、建て替えや改修などの検討対象になると考えられます。なお、このデータは不動産登記簿などに基づいておりまして、改修の施工状況を把握することは困難でございますので、この8割の中には、既に改修などを済ませた建築物も一定数含まれている旨、ご承知おきいただければ幸いです。

次に3ページをご覧ください。居住者数と就業者数につきまして、勾当台周辺と仙台駅周辺を比較したものを掲載してございます。左上の折れ線グラフの通り、居住者数につきましては、勾当台周辺では2000年の数字から約1.5倍に増加しております。また、その下の棒グラフにございます通り、男女とも20歳から49歳の年代で顕著な増加を示しております。右側の就業者数でございますが、折れ線グラフにございますように男性の数だけで比較しますと、仙台駅・勾当台とも約4万人でほぼ同数となっておりますが、女性の数の差、これが総数の差に現れているという状況でございます。

なお、勾当台周辺では、右の中ほどの棒グラフの通り、Hの卸売業・小売業、それからLの宿泊業・飲食サービス業、またQのサービス業、Rの公務が非常に多くなってございます。最近では医療・福祉といった業態の増加率が高まっているという状況でございます。

次に4ページをご覧ください。4ページでは、歩行者通行量と人の滞在状況を整理した

資料を掲載しております。左側のグラフと中央の表をご覧くださいますと、この30年、1990年との比較になりますが、仙台駅周辺と勾当台周辺では歩行者通行量が逆転をしているという状況でございます。また勾当台周辺では、1990年と比較して3割以上の減少となっているところがございます。前のページで、勾当台周辺では居住者数と就業者数が増加しているというご説明を申し上げましたが、その一方で歩行者通行量は減少している状況でございます。また、この資料右にメッシュ図を載せてございます。これは人の滞在状況を携帯電話の位置情報から集計したのとなっておりまして、1つのメッシュが100m四方となっておりまして、そこで15分以上の滞在があったものをカウントし、面積で割って密度を算出した資料でございます。赤色が濃いほど人が密集し、青色が濃いほど閑散としていることを示したのとなっておりまして、赤色につきましては、この勾当台周辺では唯一1か所、仙台三越さんの付近で確認できるところでございますが、その他は仙台駅周辺に集中しているという状況でございます。

続きまして5ページをご覧ください。平均空室率と平均賃料をお示しいたしております。勾当台エリアを含む県庁・市役所周辺地区は緑色の折れ線グラフで表しております。左側のグラフでお示しいたしておりますのが空室率でございますが、この10年間、全市的に低下している状況でございます。その一方で右側のグラフでございます賃料につきましては、おおむね横ばいで推移しておりますが、直近の3年を見ますと、上昇基調の地区と横ばいの地区とに分離する傾向が見られます。なお、緑色の県庁・市役所周辺地区は横ばいとなっております。

続きまして6ページをご覧ください。こちらは、勾当台エリアやその周辺についての認知度や来訪状況、イメージ等の調査結果となっております。上段の左の表と右のグラフでございますが、北海道から関西圏までの4千人を対象としたWEB調査結果でございます。右側のグラフをご覧くださいますと、破線で囲っておりますが定禅寺通や国分町は、市内観光資源として比較的上位にはございますが、上段の濃い青、こちら来訪率を示しておりますが20%台前半、薄い青色の認知率、こちらは30%前後となっております。資料の下段には、定禅寺通周辺の居住者の方と就業者の方にご協力をいただきまして、エリアのイメージについてインタビュー調査を行った結果を抜粋してございます。詳しくは後程ご覧いただければと思います。

続きまして7ページでございます。

7ページ以降は、勾当台エリアにおけます本市の施策、現在取り組んでおります施策をお示してございます。

7ページは市役所本庁舎の建て替えでございます。現在、7月9日までを期間といたしまして、本庁舎建て替えの基本計画に対しますパブリックコメントを実施いたしております。夏には基本計画を策定した後、設計・工事を経て、令和10年度の新庁舎供用開始を目指して、建て替えを進めてございます。新本庁舎の低層部・敷地内広場につきましては、資料右下の図にございますような目標を掲げて、「都市の新たな価値を生む」「都市に開かれた」市庁舎となるべく、今後、設計や管理運用などの検討を重ねてまいることとしてございます。

次に8ページをご覧ください。8ページでは定禅寺通活性化をお示してございまして、

昨年10月に3日間実施いたしました、一部の車線規制を伴う社会実験の状況をご紹介します。右側のグラフでございますが、その社会実験の際に、定禅寺通の歩行者・滞在者に対しまして、定禅寺通の他にどこを訪れたかをアンケート調査したものでございます。オレンジ色で示します一番町、それから灰色で示します仙台駅周辺では、来訪者の年齢層によりまして、来訪率が大きく異なる結果となっております。一番町につきましては年代が上がるにつれ右肩上がりです上昇しまして、灰色の仙台駅周辺ではその逆という状況でございます。

最後に9ページでございます。こちらは、勾当台公園・市民広場の再整備について記載してございます。右側のグラフにございますように、市民広場はイベントなどの舞台といたしまして高い稼働率となっております他、勾当台通の東側にございます憩いのゾーンは、その名のとおり多くの市民の方々に憩いの場として親しまれている状況でございます。しかしながら、平成元年のリニューアルオープンから30年以上を経過いたしまして、一部施設に老朽化が見られること、また、市役所新本庁舎の低層部とその敷地内広場、そして市民広場の一体的な活用に向けた連携などを背景とし、勾当台公園の再整備に向けた検討を、今年度より開始する予定となっております。

なお、資料7の次の資料、こちらは参考資料といたしまして、総合計画と並行して検討が進められております、主な分野別計画の直近の議論をご紹介させていただいておりますので、適宜ご参照をいただければと存じます。

ご説明が長くなりまして恐縮ですが、勾当台エリアの位置付けと現状等についてのご説明は以上でございます。

宮原座長： どうもありがとうございました。勾当台のエリアがどの範囲を想定していくかという事と、それから歴史的なもの、地形、それから地理的空間の変遷等々、詳しいデータを今、ご説明をいただきました。特に仙台は空襲にあり、今度の7月10日でちょうど75周年になります。そこから随分また、復興の過程で色々なまちづくりが進められてきたのだと思います。

またこの勾当台を中心として、ずいぶん歴史が経って、住んでいる方、それから建物の年齢。人だけでなく、建物の年齢もかなり古くなっているということが示されました。それから人の流れというの、仙台駅が随分と賑やかになってきた中で、実際にデータで拝見していても交通量の変化が出てきているという、非常に細かいデータを集めていただきました。

勾当台の本当の現状について、皆さんに確認をしていただけたかと思えます。改めて皆さんの方からご質問やご意見がありましたらお願いします。まず、勾当台というエリアですが、このエリアでの議論でよろしいかというか、皆さまとしてどうでしょうか。

生まれてから一番古くいる高山さん。勾当台というと、どんなエリアですか。

高山委員： 勾当台というと、イメージはもう少し狭いかもかもしれませんが、それが今回、勾当台エリアビジョンという名称になっていて、あえて勾当台として、絞りたいというふうに捉えてはいました。ただ、色々と勾当台のことを考えるに当たっては、定禅寺通やその先

の西公園、一番町などと、色々な関わりがあると思うので、その辺はどういうふうに整理して検討していくのかは課題かなと思います。

宮原座長： いかがでしょうか。エリア的にといいですか。

姥浦さんもどうぞ。座長代理でもどんどんご意見を。委員が5人しかいないので皆さんにどんどんご発言を頂ければと思います。

姥浦座長代理： 場つなぎとして話をします。要素としては高山委員が発言した事とつながると思いますが、2点ほど。

計画の外形というか、それについてですが、まず1つ目が都心全体の中で、定禅寺なり勾当台というところが一体どうなのかということが1番重要なポイントで、本来であれば都心全体として、先ほど申し上げた駅前地区とか一番町であるとか、本町など、色々な地区があって、多様なそういう中で構成されているのが仙台の都心だと思います。その中で相対的に勾当台ってどういう位置付けを持っているのだろうというところを、本来的にはその特徴を示しながら、それでこれを伸ばしていくにはどうしたらいいのかを考えていく。おそらくそれがオーソドックスな考え方なのかなという気はします。おそらく都合上、そうはいかない順番になっているのも理解はしますが、これから資料作りなどする中で勾当台のこのエリアだけの資料ではなく、常に都心の中でここはどういう位置付けなのか、もしくは仙台全体の中でここはどういう位置付けなのか、資料の中で、ここを議論出来ればと思います。最終的にアウトプットとしては、半分くらい都心全体のビジョンが出来上がり、こちらの勾当台のエリアについても、きちんと出来上がるという、そういうイメージのものになる気がします。

2つ目はエリアについてですが、仙台初心者で申し上げにくいけれど、例えば、先ほども西公園という話が出ましたが、公共施設や民間の建物であるとか、それから実際のまちづくりの動きなどを想定すると、勾当台のエリアに限らず、もう少し定禅寺通の方に広げても良いと思います。定禅寺通の方にどこまで広げるのかや西公園の一番先、定禅寺通の一番先は西公園なのか定禅寺通のかなど細かい議論はあると思いますが。逆に我々として考えないといけないエリア、これから売り出そうとしているエリアがこのエリアか、またはもう少し広いエリアなのか、どこなのかということが、おそらく出発点として議論する必要があると思います。それを考えるとおそらく晩翠通ぐらいまでにとどまるのではなく、もう少し広げてもいいという気がします。そもそも資料でエリアを黄色で大まかな範囲になっているので、その範囲もう少し広げるくらいで、きちんと線を引くわけではないので、それでいいと思います。

頭の中で意識すべき事は、定禅寺通全体としてどうするのかとだと思います。それは実体的な意味でも、計画の対象としてあるべき姿ということでもありますが、もう一つ、やっぱり対外的な知名度と言うのか、勾当台は地下鉄の駅にもなっていて、おそらく勾当台よりは定禅寺通と言った方が、外に売り出す時にも良いという気がしています。そもそもエリアビジョンの名前も「勾当台・定禅寺通」に変更したほうが良いと個人的には思います。そういう形で実体的に我々が売り出すべきところがどこなのか、それか

らどこを売り出すと効果があるのか、2つの面から考えると、定禅寺通まで入れて、ついでに名前まで入れた方が良いという気がします。

宮原座長： ありがとうございます。他に何かご質問、ご意見有りましたら。  
舟引先生お願いします。

舟引委員： 枠組みの話で。中身の事はまたあとで時間があればと思いますけれども、定禅寺がどこまでかという話。姥浦先生がおっしゃった通り、全体の、このたくさん入っている方の図面でものを考えていけないと考えています。その上で狭めていくというところは必要ですが、さらに狭くした定禅寺のところで、市役所で北が切れている。このエリアには2つ課題があって、1つはやはり老朽化したビルの建て替えの時にどういう仕掛けを入れるかという話と、職住近接の都心居住の形をどう誘導するか、それが無いところに人は出て来ないと考えます。上杉のここは震災復興の区画整理をやっていないので、伊達藩のまち割りの真ん中ですけれども、最近マンションがだいぶ建ち出しているし、そういうところに新しく住む人が、外に夕方でも夜でも、職住近接だからこそ遊びに出て行って、その遊ぶ場所がパブリックスペースなり、定禅寺通の界限だということにしないと、人はエリアをきれいにしたところで、そこに人は来ないので。そう考えるとちょっと二日町、上杉とかその辺りと、それからオフィスの建て替えだと、もう少し南まで入れたぐらいを対象にして分析をしておかないと、説得力のある話には中々ならないかという。ちょっとエリアの枠組みはそんな感じがします。

宮原座長： エリアで色々ご意見いただいています、岩間さんはどうですか。

岩間委員： 私も姥浦先生と同じように、もう少し定禅寺通の西公園側まで広げるイメージの方がいいと思います。その理由はこの黄色の円の中で見た時に、実際にこの辺りを歩いていると、本当に歩いているだけで、顔と言いますか、まちの表情が変わっていく。商業エリアもあれば市役所のようなエリアもあり、公園とコチャコチャした住宅とかというふうにどんどん顔が変わっていく中で、言ってしまえば、まとまりづらいエリアかなとすぐ思います。

姥浦先生は売り出すという言い方をしていましたが、分かり易く「売り出す」と言った時には、どちらかという、やはり「西公園や広瀬川も近いよ！」みたいな。特に駅前との対比が必要という話が出ていると思いますので、自然資源。分かり易く仙台の良い自然資源が集まっているというような意味合いで、勾当台エリアというのは定禅寺通の先まで含むと言った方が、まとめやすいのではないかと感じます。

宮原座長： ありがとうございます。他にいかかでしょうか。

市の皆さんの方からは、いまご意見がありましたことについて何かコメントありましたら、お願いします。



事務局： ご意見ありがとうございます。私共の方でも、どのエリアにするかということに関しては、内部でも色々な意見があり、今回お示しした案としては、もちろん都心の中で勾当台をどう考えるかという、今ご指摘があったような事について議論しながら出したものでございます。

現在事業が多く進もうとしている地区を中心という意味で、大まかな範囲で円を描きましたが、各委員の方からご指摘ありましたように、非常に、道路1本をとりましても多様性のある地区ですし、この地区だけがあるわけではなくて、仙台駅があって、まさに舟引委員がご発言されていたように、二日町や大学病院のあたりまで含めて、地域の方がお住まいになる中での定禅寺通ということが当然あるので、そういう事でご議論を進めていただきながら、まとめの段階でどういうふうにしていくかと。先ほど姥浦委員の方から半々みたいな事もありましたが、その辺はこちらの方でも工夫していきますので、ご議論としては、只今のような形で進めていただくということは重要だと思います。

宮原座長： ありがとうございます。仙台市の色々なエリアとも比較しながら、結局はこの色々な特徴をどう高めていくかというところであれば、必然的に比較は必要だと思います。それから今日いただいている詳細、資料の中でも色々他と比べた時に違いというのも見えてきているのかなと思います。

私の方からよろしいでしょうか。今回冒頭に、仙台市役所庁舎の建て替えも含めて、色々公的な施設のリニューアルもあると同時に、民間の地域の色々な建物の更新時期でもある。これもデータで非常に築年数が経ったものが多いと伺ったのですが、具体的に例えば商業系の建物や色々な施設がこれから近い将来、どれだけこのエリアでリニューアルであるとか、物件が動いていくのかというところは何か仙台市さんの方で情報は持っていますか。

事務局： 個々の建物等について具体的に、なかなか全てを把握するというのは難しいところですが、この資料の中の2ページにお示ししています通り、都心商業地域全体と比べても、全体との比較の中で老朽化の度合いというのは進んでいるということは事実なのかなと考えますので、今後そういう更新というのが進んでくるのであろうと捉えているところです。

事務局： 更新が進む際に、やはりどういう投資をするか、というような事をお考えいただく際に、勾当台・定禅寺通のエリアが魅力のあるものになれば、より都心のインセンティブになると思うので、公共の部分、市の検討なのでそれを中心とすることにはどうしてもなるのですが、民間の皆さんのインセンティブにもなりうるような、魅力ある、価値を高められることができるような事が出来ればいいなと私どもとしては思います。

宮原座長： ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

いま、資料6と7の部分でエリアの事につきましては、皆さんから色々ご意見をいた

だいただと思います。それから色々な計画をつないでいくこのビジョンが新総合計画と色々な計画をつないでいくものだということでご説明がありましたが、これについても何かご意見有りますでしょうか。

高山委員お願いします。

高山委員： 仙台市さんの方でいま、定禅寺通活性化検討会とご一緒に、定禅寺通のビジョンなども検討しているので、もしかするとこの検討会で検討していく中では、かなりエリア的に共通してくると思います。この辺、調整が必要だと感じます。

宮原座長： 定禅寺の活性化に関わるプロジェクトも動いているのでと、お話しいただきましたが、この勾当台ビジョンとの関わりはどういうふうになりますでしょうか。

事務局： お話がありました定禅寺通の活性化につきましては、定禅寺活性化の検討会を立ち上げまして、地元で根を下ろしてこれまで経済活動なり、まちづくりを進めてきた方々、非常に定禅寺通を知り尽くしている方々がメンバーとなり、この定禅寺通をどんな方法で活性化していこうというビジョンを策定するとともに、具体的な取り組みをしています。ビジョンの部分に関しては、先ほど、お話がありましたように、範囲を定禅寺通まで広げると、エリアとしては重なってしまうところがあり、そのところについては私共もこちらで出た意見、そして活性化検討会で出たご意見を踏まえながら、その辺は調整なり、情報共有を図っていきたいと思っておりますが、いずれにしてもこの定禅寺通、そして勾当台エリアがやはり仙台市の杜の都を象徴するエリアであるという大きな方向性につきましては、恐らく、あまり大きくずれることはないと思います。

そして、活性化検討会の方は、まさにこのまちづくりに関わっているプレーヤーの方々が中に入っていて、より個別具体の動き、イベントなど、そういうものも踏まえながらのビジョンとなるところがあるので、勾当台のこちらの大きなビジョン、そして実際に個々の取り組みを元にした検討会のビジョン、そういうものをうまく融合できるように事務局として調整していきたいと思っております。

宮原座長： ありがとうございます。よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

資料についてはほぼ皆さん、確認をしていただきながらお話、ご質問等をしていただきました。

#### (5) 都心における勾当台エリアのあり方について

宮原座長： 議事の5番目になりますが、これから皆さんにも色々なご意見をということで、これからは少し自由に選ばれ続ける都心づくりとして、この勾当台というエリアがどういう役割を果たしていくべきか、という事を皆さんから自由なご意見をいただきたいと思います。

今日はスタートなので、まだこれから何回か議論していくところですが、スタートに

あたり、勾当台のエリアについてどんなことを考えているのか、またどんなことが大事なのかをお話をいただければありがたいと思います。

岩間さんからよろしいですか。

岩間委員： どんな勾当台だったらいいか。難しいですね。

宮原座長： この委員さんをお引き受けになり、まず、こんなふう勾当台になったらいいなとか。

岩間委員： 私自身は遊歩道とか、あとは市民会館の少し空いている空地でマルシェをやるのを前職でしていましたが、すごく車社会なのは理解した上で発言させていただきますと、車がすごく多いということがあります。

この辺で「シャンゼリゼ通りみたいにマルシェがあったら素敵だよ」とか「オープン席あったら素敵だよ」というのはわかるのですが、実際にマルシェとかを行う側からすると、背景に車が多く走っているので、気持ち良くないというのをすごく感じています。そこでマルシェをやろうとすると許可の管轄がすごい。「今度は何課に行ってください」「ここの許可は何課です」というのがすごくあり、そのあたりが本当にビジョンを策定してこの場所を、仙台の売り出しエリアにするのだというのであれば、もっとスムーズに市民活動や民間の動き方などが、スピード感を持って出来るような場所になり、かつ実際のイベントの日も参加する人が本当に気持ち良いなと思ってもらえるような、そういう空間になって欲しいという、とても壮大な夢なんですけど、そう思います。

宮原座長： ありがとうございます。それでは、舟引先生いかがですか。

舟引委員： たくさん申し上げたいことはありますが、いくつか、参考資料の中にあるところで。

新総合計画を皆さん議論されていますが、「The Greenest City "SENDAI"」という言葉を出したのは竹川先生でしたが、言い出したのは半分くらい僕が犯人だと思います。コロナ以前の段階から、総合計画やみどりの審議会だとか全部大体同じことを言っていますが、自分達が考えているより、仙台は外から見ると、とても魅力的だよと。その魅力を伸ばしていき、世界相手の都市間競争に勝てるようにしようよ、と。そういう視点で見ないと、良いところだと、みんな気が付かずにいるのが勿体ない。

それが緑や鳥、さっきの都心再構築みたいなのもそうですが、そういうので結局 Greenest City になり、そのためには何をすれば良いかという話を色んな審議会でもしていますが、ポストコロナになり、たぶんまた 100 人とかなんとか言ったら、本気で企業は東京から逃げ出すことを考えていると思います。

そうすると、ここで今みたいな、賃料が 1 万円というのは安い。何倍かの東京の賃料とは違うので。ただ、床がどれだけ供給できるかということもあるし、ロットがまとまるかとか、そういうのは色々あると思いますけど。そうすると、やはり東京から新幹線乗って 1 時間少しで来て、比較優位とすると、どこに引っ越すよりも結構便利なとこ

ろだと考えてものを見ていかななくてはいけないという視点でずっと言っています。

そうして、ちょっとフィジカルプラン的な事を言うと。たくさん広い方に書いてある方の図面です。これを見て、本当にワクワクします。都市計画マスタープランの世界ではあまり意識していませんが、例えば、いま勾当台のエリアから、アーケードをずっと行き、南に下ると、片平に行く。東北大学がある。皆様は普通に大学と思っているが、行ってみると結構良いのです。片平キャンパス、昔の植えた桜があり、松がある。それから少し足を延ばすと、霊屋下なので、お城にも歩いて行ける。

勿体ないのは、評定河原とかに行き、いつも歩いていて気が付く。これもみんな仙台の人はあまり褒めないが、新寺から榴ヶ岡のあたり。季節感が非常にあふれていて、紅葉は綺麗です。外からの人にとっては、とても魅力的なスポットが沢山あるので、それをどうやってつなぐのか。そこで回遊性をどう保つのか、作り出すかということ。そのメインが青葉通であり、定禅寺通である訳なので、そこの今言ったような都心全体で他所から来た人が、観光客でも、仕事をしに来る人でもいい、こういうつなぎ方をすると、こんなに魅力があるというような事でやっていかないといけないし、その中で、勾当台エリアの住宅、建物も含めて業務床も今言った意味ではものすごく重要になりますから、そこの作り方をどうするかという事だと思います。

1つ、ここからは少し夢物語的ですが、先日終わった国会。みんな検察庁だとか騒いでいたが、1つ面白い法律が成立し、道路法の改正が行われました。今まで道路法は基本的に車を通すための道路でしたが、極端にいうと車ではなく歩行者を優先にする道路を、それを目的に作るということで、その中で、例えば民間事業者が占用する時の特例をすとか、とうとう、そこまで来たのかということ感じました。

一方でウォークアブルシティという、とにかく歩き回れるまち。神戸なんか、本当に車道大幅につぶして緑道化しているようなことを、仙台で取り組まなくてどうするのかと思う。この地図を見ると、南北線で行くと仙台駅から花京院を通過して、定禅寺通までの所などが、どこにもつながってなくて。真っ先に手を挙げて、そういうことをして、ぐるりと歩いて回れる。所々に真珠のネックレスなどが入っている宝石箱がいっぱい散りばめられているような、そういう大きなビジョンの中で、何をするのかという事を考えていく方がいいと思います。

宮原座長： ありがとうございます。では、高山さんお願いします。

高山委員： 資料にもある通り、今回市庁舎の建て替え、勾当台公園とか、市民広場のリニューアル、それにどこに建設されるかはわかりませんが、音楽ホール、中心部の震災メモリアル拠点とか、この周辺も可能性があると思うので、そういう意味ではビックチャンスであり、これを大切にしなければいけないと思います。資料にもある通り、一番町とか駅前前の通行量を比較すると仙台駅に集中していて、特に一番町は人も減り、なおかつ年齢層では若い方が駅に集まる。一番町側は通行量が少なく、なおかつ年齢が高齢化している。そういう意味で今、なかなか回遊するにしても、仙台駅に集まってきた人達、東北各地から集まってきた人達を、まちなかを回遊させるのには、それだけでは足りないか

もしれない。もう 1 つの極が必要で、それがこのエリアの可能性を秘めていると思い、大きく期待しています。

宮原座長： ありがとうございます。では、姥浦先生お願いします。

姥浦座長代理： 先ほども言いましたが、仙台の都心全体の中でここは一体どうなのか、というところを議論していかなければいけないと思います。その中で一番、典型的に出てくるのは、資料でもたくさん作成いただいた、仙台駅との関係。仙台駅はおそらくミニ東京だと思います。あそこは東京らしさがあり、そういうところに憧れる人たちが行き、良いと思う人たちが東北中から集まり、買い物をして行くという、買い物も中心で東京的な雰囲気という、どちらかというところという空間なのかなという気がしています。一方で勾当台は、向こうは量があるというイメージで、量を追い求めるというよりは、どちらかというところと質を追い求めながら、東京にはないようなものがなんだろうと、探しながらやることで、まったく総合補完的に考えていく必要があるのだろうということ、ですからそういう意味では、仙台の象徴的なエリアというのが、ここなんだろうなという事です。先ほども紹介された、総合計画でいうと、**The Greenest City** があり、このエリアが **The Greenest of The Greenest** みたいな感じで、仙台 of **The Greenest** 仙台というか。

最近、非常にショックだったことがありました。それは、コロナで抗体検査をやりますということで、全国で各 1,000 人、東京と大阪と宮城県でおこなうとテレビで放送していたのですが、東京でやりますと言っていた時の背景画にはスカイツリーが出てきて、大阪でも 1,000 人やりますと出てきた背景画が道頓堀です。仙台で、宮城県でもやりますと言っていた背景が仙台駅と書いてある仙台駅。仙台駅と書いてないと、そもそも仙台と聞いて理解できるかわからないような。解説付きで仙台駅とついていて、それが宮城県を象徴する風景として出てくる。これはかなり残念な事で、これが宮城県を象徴する、もしくは仙台を象徴する風景だろうかということを見ると、おそらく今はそうかもしれないが、10 年後は違うぞと。10 年後、次はコロナなのか何かわかりませんが、同じようなことで宮城県がなんとかと言われたときに、画として前面に出してもらえるような、そういう空間に出来たらいいと思います。その場合には当然、ハード整備として交通をどうするのかなども当然あるし、それからどう使うのかというところ。その使い方もたぶん問われていて、それがハードとソフトを含めたところで仙台の象徴となるようなエリアをどう作っていくのが、1 番のポイントだと思います。その意味では、駅の方がどちらかというところ、物を買う、そういうものが中心だとした時に、こちらにはむしろ、まちをみんなが、仙台市民が使うというか、ここで楽しむ、まちを使うというようなイメージの場所として、ここがあるのかなと思います。

ですから、先ほどのセクションで話題に出た、定禅寺通で頑張っている民間の皆さんと一緒にどうするのか、という話。使っていくという意味では、まず、最初のプレーヤーはそこで土地を持っている方であり、それからそれ以外の市民の方が出てくると思いますが、そういう方の意見をここにどう反映するのかは非常に重要だと思います。それをすべて事務局側で担われるのか、それともフォーラム的なものを開くのか、何か別の

やり方をするのか、色々なやり方があると思いますが、この辺は意外と慎重に考えていく方が良いと思います。そうすることでこそ、最初のところで全体のビジョンと、それから公共施設をどうするのかという話と、民間の話とを3つの柱ですと言われた、この3つが本当に成立する為には、おそらく民間の人達なり、市民の人達のご意見をきちんと入れるのかということが非常に重要になるという気がしています。

あと1つだけ、すみません。5人しかいないので。

1つだけ細かく。ちょっと細かい話になりますが、最後にエリアの中の話で言うと、エリアが少し、ぶつぶつと切れているかなという気がしていて、勾当台、定禅寺通というこのエリアがもう少し色々つながると、相乗効果を発揮できるのという部分がおそらくあると思います。具体的に言うと、一番町のアーケードがあり、それを出た後、そこでまず切れる。定禅寺通は定禅寺通の公園のところ周りが周りのまちから切れているという部分がある、それから、それらと市民広場の方も切れている。それから市民広場と市役所も切れている。

ということで、色々ポテンシャルはそれぞれあるが、それらがぶつぶつと切れていて、非常にもったいない感じになっている。ハード的にはこれらをどう、ちゃんとなつないでいくのかということが課題だと捉えています。以上すみません。非常に長くなりました。

宮原座長： ありがとうございます。皆さん、今のご意見それぞれで付け加えたりするところありますか。いかがでしょう。

高山さんお願いします。

高山委員： 商工会議所は、仙台七夕まつり協賛会の事務局をもっておりまして、そういう視点からすると、このエリアは仙台における文化発信の拠点であり、そこはこれからの検討の中でも大切にしていってほしい視点だと思います。

宮原座長： ありがとうございます。他にいかがでしょう。

岩間委員どうぞ。

岩間委員： 本当に色々な方が関わり、地元のステークホルダーの方などの意見を集めていくのが、本当に大事であるのは私もすごく共感しています。本当に仙台に住んでいる皆さんがすごくプライドを持って育ててきたエリアだと思うからこそ、先ほど調整はもちろんする、というふうに言われていましたが、定禅寺通の方でもビジョンがあり、勾当台の方でもビジョンがある、これから作っていくものがあるというところがすごく、危ういと思いました。検討会の方では、すごくこだわりを持って皆さん、きっとビジョンを作るので、ここの5人でつくったビジョンというものが「なんぼのもんじゃい」となるのではないかという、怖さみたいな。その調整は本当に大事で、何をどうやって進めていくのだろうかということが気になります。

宮原座長： 他の計画との進め方、調整の仕方というのもちよっと気を使った方がいいのではないかとのことですよね。

他にいかがでしょうか。どうぞ。

舟引委員： ちょっと続きの話になりますが、まちづくり、人ももちろん大切だが、ものは建て替えるにしても、土地利用の転換がある時にしか綺麗にならない。だから、そのチャンスを逃さないように行政が色々なものを用意する。ルールを作る、支援をするなど。それをしていかないと、あつという間に勝手な理屈で、勝手に建て替わってしまう。これをどうにかして防がないといけない。今言ったディテールでのオープンスペースがつながるかとか、そういうところには中々いかないというのが、残念ですが、冷酷な事実です。

私の経験で言うと、一番進んでいるからですが、東京駅や丸の内や大手町。平成の一桁ぐらいの時だから、今から 25 年くらい前にやはり建て替えになり、テナントが逃げ出しそうになっていた時期があり、このままだと東京駅周辺は衰退する。ということで、地主さんが中心となり協議会を作り、どういう都市デザインをするかというところまでルールを作り、順次 30 年経った建物を建て替えていった。仙台でも行っているが、都市再生特別地区という容積緩和をして、順次超高層ビルに建て替えていき、同じルールで道路を綺麗にする、歩道を広くする、公開空地をつなげることにより、建物のビルの地下だけを通り大手町界限の全てに行ける。あれはそういうふうにルールを決めてやっているの。そう考えると、この会議の任務かどうかは別ですが、そこを押さえていかないと、いくら公共空間の整備だけやるといっても駄目だという感じがします。例えば、市役所を建てます。青葉区役所があります。隣にある上杉本庁舎。特例を使って、公開空地を作ってやっていますが、お粗末だと感じています。人が中で遊べるような世界、マルシェがあるような世界になっていない。あれだって工夫次第で色々つながっていったけれども、そこをコントロールすることが上手く出来ていなかった。それを建て替え、古い住宅が中層化する、マンション化するとか、そういう時にどういうことをして貰うのかなど、もう少し、そこまで含めて本当は考えなければいけないと思います。そそうしていくと、10 年経って 20 年経つと、本当にずいぶん変わると思います。

宮原座長： ありがとうございます。他にいかがですか。色々ご意見が出たと思いますが、事務局の方から何か改めてコメントありますでしょうか。

事務局： ご議論についての意見ということではないのですが、先ほどからありますように、色々な動き、民間の皆様動きも出ていて、公共の方もやっていくという時に、舟引委員がおっしゃったように、一定のルールとか、それが仙台らしさになるのかわかりませんが、そういうようなものも重要だと思います。

まさに資料 5 でお示ししましたけれども、戦後の復興区画整理から始まって、30 年前の地下鉄等の整備があつて、そこからいくと 30 年ぶり 50 年ぶりといったものがきていますので、10 年ごとに総合計画が改定されて、都市マスも改定されますが、次の 10 年間というのが非常にその、先ほど舟引委員が言っていたように建て替えの時ぐらいし

か大きく変われる要素がないので、非常に大きな10年間になると思っています。

我々も各種資料の中でこの会に向けて、若手職員の勉強会などもしましたが、戦後以来の少し歴史を勉強した資料を付け加えながら、そういう流れの中でいま、勾当台ビジョンを作る意味、そういうようなことも押さえたいと思っけていまして、ルール付けというの、ある種権利に触るところがあるので、実際にやり切れるかなどはありますが、そのような中で、先ほどからあるように「魅力的で選ばれるまち」でありたいと我々が思う時に、都心全体とその核となる勾当台・定禅寺通をどうしていくかというような話を庁内でもしています。

今、各委員からあったお話は全部、私共としてももっともなことだと思っけておりますし、忌憚なくご意見をいただきまして、実際に出来るだけ実現していきたいとは思っています。できるものとできないものが出てくるのかもしれませんが、そういう中で私共が次の10年に向かってやれることをまとめていきたいと思っけておりますので、今のような、各委員の課題意識の下で活発なご議論をいただき、我々もそれに刺激を受けて、他の取り組みも含めて、きちんと情報共有しながら全体をコントロールできればいいなというふうに思っけております。

宮原座長： どうもありがとうございます。色々まとめていただきましてしました。

今日、委員会が始まってから予定していた時間よりも少し早めに色々進行していますので、皆さんからも今回の資料に対するご意見、これからのビジョンのあり方についてもたくさん参考になるご意見をいただいたと思っけています。

私自身も先ほど、言いましたが、平成9年に仙台にきた時、本当に勾当台のこのエリアというのが、空間がとても広くて、非常に気持ちの良い場所だという印象がずっとあり、その印象が全然壊れていない、ますます魅力的な場所になっていると思っけています。また勾当台の広場ではいつも何かしらのイベントやマルシェも行われていて、人の賑わいをつくるなど、お祭りの中心の場所でもあるので、仙台で何か大きなものがあつた時に、勾当台のエリアが中心となっているというのはその通りだと思っけていますし、市民の方たちもここを大切にしていくということは、意見が違わないところだと思っけています。ただ、今日委員の皆さんが発言されたように、勾当台は勾当台、駅前は駅前とかという形でのエリアの特徴で分かれることはありますが、それをつないでいくような考え方、仙台としてどういう都市になるのか、そういう大きな枠のところから、勾当台の役割を考えていくということも、とても大事だと思っけています。

今日、岩間委員や皆様もおっしゃっていましたが、勾当台のエリアの範囲については、まだまだ議論があるかもしれません。例えば、もう少し北四番丁の方に向かって、東北大学の農学部の跡地で大変大きな開発も行われていて、そういったエリアも含め、色々な人の流れ、居住する人たちが随分と変わってくるというのも想定されているのかと思っけています。そういう意味で、色々な勾当台の性格といひますか、昼は官庁街であり、土日に色々なイベントで沢山の市民の人達が集うような場所。最近では先ほど、舟引先生が言っていたように、マンションが随分と整備されてきましたので、夜でも市民の人達が歩いていたりして、24時間色々な使われ方をする場所でもあると思っけています。そういう、



時間の中で勾当台がどうやって特徴付けられてくるかというのも、すごく興味があるところだと思います。

勾当台から少し離れるかもしれませんが、東京から仙台に初めて来たときに、城下町というか、仙台は本当に城下町なのかもしれないが、城下としての歴史がほとんど見えません。もちろん空襲も受けたりして、古い町並みも無くなってしまった中で、なかなか城下町の表情を辿るのは難しいかもしれませんが、地元の色んな仙台のガイドさんは、そういう小さなところ、地名であるとか、ちょっとした小路、そういうものを使いながら、仙台のもう一つの、仙台北下としての時代のレイヤーを観光客の人に見せようとしている部分もあり、何か仙台が歴史と言った時に、あまり触れていないという部分があるかな。これは勾当台だけではなくて、他の部分でもそういった想いがあり、仙台市民の人達は城下町としての歴史をどう捉えているのかというのは、疑問であります。

一方で新しいまちを目指して、非常に清潔で綺麗なまちであり、ボストンのまちなどと比べられたりする時もあるので、先ほど舟引先生が言っていた世界的なレベルでの都市づくりという中で、色んな可能性があるのではないかと思います。これからコロナで時代が変わり、市長さんも言っていました、色んな方の生活のありかたや仕方が変わってくるときに、この仙台がどのように他所の人からも位置付けられて、利用されていくのか、非常に興味があります。先日、別の会議である方からお伺いしたところ、グローバル的な企業の方たちがコロナで色んなところでリモートワークをしていて、自分たちで場所を選べる。その方は仙台を選び、仙台でいま滞在してリモートワークをしていると。東京に行くよりは仙台だったら、東京よりは非常に落ち着いているし、自由もきくという事で、ここをリモートワークとして選んでいるというような話もありました。やはり外の方から見たときに、この仙台の価値みたいな部分、今ずっと大事にしてきている部分が分かって貰えているところもあるのかなと思います。

勾当台エリアという話になりますが、ここと他のエリアを有機的につなぎながら仙台として色んな方に来て、住んでいただき、利用していただくという、そういうまちを目指していくのが良いと思います。今日、皆さんからご意見いただいた中では、この勾当台エリアの位置付けを、やはり本当に仙台の将来にとってはすごく大事なところだということを確認させていただきました。

少し長くなりましたが、皆さんから貴重な意見をいただいたとともに、私自身のコメントとさせていただきます。ありがとうございました。

何か皆さんの方から付け加えてご意見いただくことございますか。次の委員会に備えての質問でもいいですが。

## (6) その他

姥浦座長代理： 宮原先生のお話にも触発されながら、結局ここは何を目指すのと言った時の話で、もう一つだけ言いますと、地元感みたいなのが、こちらのエリアは大切だなという気がして。しつこいようですが、駅前が東京的なものだとすると、こちらは東北、仙台、さらに定禅寺通というレベルでも良いと思うのですが、地元根付いた場所というイメージ

ージだと思います。地元で根付いているというのは、非常に瞬間的に楽しいというよりは、長く持続して楽しいというイメージ感で。特に仙台の人、地元の人に好かれる、居心地が良い、ここが良いと言われるような空間、場所、ここをどうしていくのかというところが非常に重要だと思います。

そういう消費や華やかさは向こうに任せて、そうじゃないような、それを補完する、まったく別のベクトルとしての、仙台、東北らしさでも良いと思う。例えば、市民広場はそういう使われ方をされていて、地元感があると思う。酒屋で言うとチェーン店のな、みんなが行くようなところが駅前の方に沢山ある。それはそれで良いと思う。国分町は小料理屋があるというイメージで、通の人はこちらに来る。分かっている人がこっちに来るといふか、そういうところが根本的に違うのかな、という気がして。それをどう言語化して図面化するのか、そういう作業が非常に重要だという気がします。

宮原座長： ありがとうございます。舟引委員、お願いします。

舟引委員： なぜ仙台駅の方が、そんなふうになっているかというのは、単純に言うと床が新しい。新しく供給された商業床だから、新しいビジネスが来ているので新しい人たちが沢山来る。それと同じことを本当に勾当台の方で出来るかという、そのような商業ビルが建つか。土地の使い方によっては出来なくはないが、仙台駅周辺のような床はなかなか作れないだろうと思うので、それも考えていただきたい。

その上で、都市更新をしていく中で、何をポイントにするのか。いま姥浦先生が言っていたお話で、その都市更新をする都市像みたいなもの。そこで、ここは個人的なアイデアですが、都心に住んで、その周りで、本当に歩ける範囲内で遊べて、飲めて、色々なことができるまちというのが、この周辺の住宅の建て替えとか、というところに要して上手く出来ていく。そういう都市像があった上で、その中のコアとなるべき勾当台エリアはどうなのか、というロジックが良いかなと思います。

宮原座長： ありがとうございます。先ほど、高山さんも文化という側面でここはすごく大事な場所だと言って頂きましたが、改めて何かコメントがありましたら。

高山委員： 資料にもありますが、定禅寺通、資料7の8ページ。定禅寺通活性化で社会実験をした際に、私も足を運びましたが、年齢層が若い人はあまりいなくて、たぶん30代以上で、見た目で感度が高そうだなという方が集っています。

駅前には新しいビジネスによって来る、新しい人で比較的若い方。そちらには現在そういう方がいるので、こちらは先ほどのような層が楽しめる文化的なエリアに育っていくと。ちょっと大人の街みたいな。おそらく、舟引委員がおっしゃっていたように、定禅寺通から北側の方に新築のマンションが結構建っていて、そこを購入できる層もある程度の所得をお持ちになった方なので、年齢層もやはりそれなりの年齢層。そういう方たちが楽しめる街などに変わっていくと良いのかなと感じます。

今、定禅寺通で社会実験をしているのでお昼を食べに行く時に、県民会館の前を歩い

ていたら、中央分離帯のところで女性の方がお昼に1人でサックスを吹いていたんですね。練習だと思うのですが、すごく恰好いい。とても魅力を感じて、そういった使い方も色々あると思う。色んな文化があると思うが、ここに集まって何か生まれる、発信できるとか、そういう文化もここから作られていく街になったら良いなと思います。

宮原座長： ありがとうございます。

舟引委員： 東京はそんなおしゃれな遊び方をしてないのですが、おしゃれな遊び方をしても、1時間電車に乗って帰らなくてはいけない。ここだと遊んですぐに帰れる。という、お洒落な遊び方があっても良いですよ。そんな感じのイメージを東京では羨ましがっていた。

姥浦座長代理： その一方で、お金持ちの方。東京で言うと日本橋みたいなタワーマンションに住んでいて、歩いて10分ぐらいのイメージかもしれないですけど、それプラス、先ほど舟引先生もおっしゃいましたが、仙台駅前と比べて家賃が安くて古い物件があるというのは、逆に言うと、これもどこかで調べていただくとありがたいと思うんですけど、若い人なりインキュベーション的な役割というか、そういう部分も定禅寺通り勾当台の表通りか、もしくは1本入った界限が、そういう役割を持っているのかなという気もしていて、非常に実は多様な部分があるというのがこの面白さで、ザ・東京的なすごい勢いのあるのとは違うイメージや勢い、ベクトルの違う勢いというか、そういうポテンシャルを持っている場所なんじゃないかなという気がしてしまっていて、必ずしもそういう現状だけに捉われる必要がないような気もしますが、現状も踏まえた上で、どうするというのをこれから考えていく必要があるんじゃないかなと思いました。

宮原座長： ありがとうございます。岩間さんも最後、どうでしょう。

岩間委員： 東京と比較してというのが、こういう会議に出ると、よく出てくるといながら聞いていますが、私自身は東京出身で生まれ育っているので、よく仙台駅前が東京と比較されることに若干違和感を持っていて、東京って、さっき全体で仙台だよという話があったと思いますが、全体で東京なんですよ。私は町田から来ましたが、町田も東京ですし、日本橋もあれば下町もあれば、全部で東京なんですよ。

そういったときによく、こっちに先駆けて来た人間からすると、「今度引っ越すから西荻みたいな街を教えてよ」と東京の友人に言われる。「西荻みたいな街って無いよ」と。それぞれのゾーンの個性の際立ちというのが、仙台はコンパクトにまとまっていて、すごく便利だからこそ、それぞれが少し薄いような気がする。定禅寺通と言った瞬間に、みんなの頭の中に「〇〇みたいな街」といって絵が浮かぶような、ブランディングではないですが、そういうふうなものが出来た方が、外から見たときは住みたいと思うかなと。

宮原座長： ありがとうございます。そろそろ時間になってきました。後半になり、色々盛り上

がって続けたいところですが、時間になりますので、そろそろ終えたいと思いますが、最後に皆さんからありますか。よろしいですか。

それでは、事務局の方から閉会の前に何かありましたら、よろしくお願いいたします。

事務局： 長時間にわたりご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。事務局からは次回の開催日程についてご案内を申し上げます。

第2回懇話会につきましては、8月下旬頃を予定しております。事務局より追って、具体の日程調整を申し上げますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

宮原座長： ありがとうございました。

## 7. 閉 会

宮原座長： 今日は第1回ということで結構フォーマルな感じで、5人しかいないのに、カチカチな進行をしてしまいまして、懇話会なのでもっと座長関係なく、意見が飛び交うようなそういう会にできればいいかなと、進行しながら思いました。

次回8月。皆さんから改めて色々なご意見をお伺いしながら、ビジョンの策定について作業を進めていきたいと思います。事務局の皆さんには今日、それぞれの委員の先生方からたくさんのご意見が出ましたので、ぜひそれも取りまとめをしながら、すでにヒントが出ているかと思うので、次回に向けてまた整理をお願いします。

これをもちまして、第1回の勾当台エリアビジョンの策定検討懇話会の方を閉会させていただきます。

今日は本当にありがとうございました。

以上